

# 令和4年度 亀山市立野登小学校 研究デザイン

## 教育大綱 基本方針―I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

## 亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

### 学校教育目標 めざす学校像

「地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成」  
・地域とつながり、活力あふれる学校  
・一人ひとりの子どもが生き生きと学び活動する学校

### めざす子ども像

【仲間とともに高め合える子】  
人の話をよく聞き、思いや考えを自分の言葉で表現する子  
【すすんで学ぶ子】  
主体的に意欲をもって学ぶ子  
【自他を大切にする子】  
互いの違いを認め、自他の命・人権を大切にする子

### めざす教師像

・「わかって楽しい授業」づくりに努める教職員  
・子どもの声や思いを大切にする教職員  
・地域や家庭と協働・連携し、信頼関係を築いていこうとする職員

### 重点目標

- ① 地域や家庭と連携し、地域資源を活かした教育活動を充実し、安心安全な学校づくりをすすめる。
- ② 確かな学力の定着を図り、個を大切にしながら主体的で対話的な授業づくりをすすめる。
- ③ 互いの人権を尊重し、仲間とともにつながり合い、高め合う教育活動をすすめる。
- ④ 教職員の働きやすい環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの確保をすすめる。

### 野登小の特色ある取組 ～ふるさと学習～

- ☆ ののぼりの自然から学ぼう  
・里山探検 ・安楽川の生き物 ・ミツマタから野登和紙作り
- ☆ ののぼりの文化や歴史から学ぼう  
・古墳 ・不動院地下工場
- ☆ ののぼりの達人から学ぼう  
・俳句作り ・ろうけつ染め ・でか書道 ・お米作り ・お茶作り



## 中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

## 野登小学校研究主題

筋道を立てて考え、伝え合い、学びを高める子の育成  
～主体的・対話的な授業づくりを通して～

### 1 研究主題設定の理由

#### ① 子どもの実態

子どもたちは、明るく落ち着いて学校生活を過ごしており、学校行事や清掃活動などに真面目に取り組むことができる。また、友だちの得意なこと・苦手なことを理解し受け入れたり、互いに協力したりすることもできる。学習活動においても、真面目に取り組むことができ、漢字の習得や叙述の読み取り、計算などの基礎的な学力が身につけている。令和3年度全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックテストにおいても、国語、算数ともに全国平均、県平均を上回っていた。

その一方で、自分の考えを話すことには課題が見られる。表現力やコミュニケーション力が十分でなく、自分の考えを論理的に伝えられない子どもも多い。加えて、人前で発表することに消極的な子どもも多く、内容を理解していても発表できない姿が見られる。

#### ② 昨年度までの取り組みの成果と課題

根拠を基に考えたことを論理的に書くことのできる姿を目指し、平成31年度から令和3年度まで、領域を国語科に設定し研究を進めた。令和3年度は、論理的な思考と表現の力をより高めるために、「考えることを楽しみ、学びをつなぐ言語力の育成～論理的に伝える力を伸ばす、国語科の指導の工夫～」を研究主題に設定した。子どもたちが「考えることを楽しむ」ことのできるように、子どもたちが興味を持てる言語活動や相手意識の設定、導入の工夫、第一次での学習の計画の設定や提示などを行った。また、「問いと答え」「対比と類比」など、論理的思考を育てるための視点についての共通理解をはかることで、叙述を基に読み取る力を育むことができた。

昨年度の成果は、論理的に文章を書くことが少しずつできるようになってきたことである。国語科確認テストでも、条件に合った文章を書くことができるようになってきた。また、日々のふりかえりも、少しずつ量と質が向上してきた。しかし、個人差が大きく、国語科で学習した表現力を日常生活や他教科で活かす力はまだ弱い。

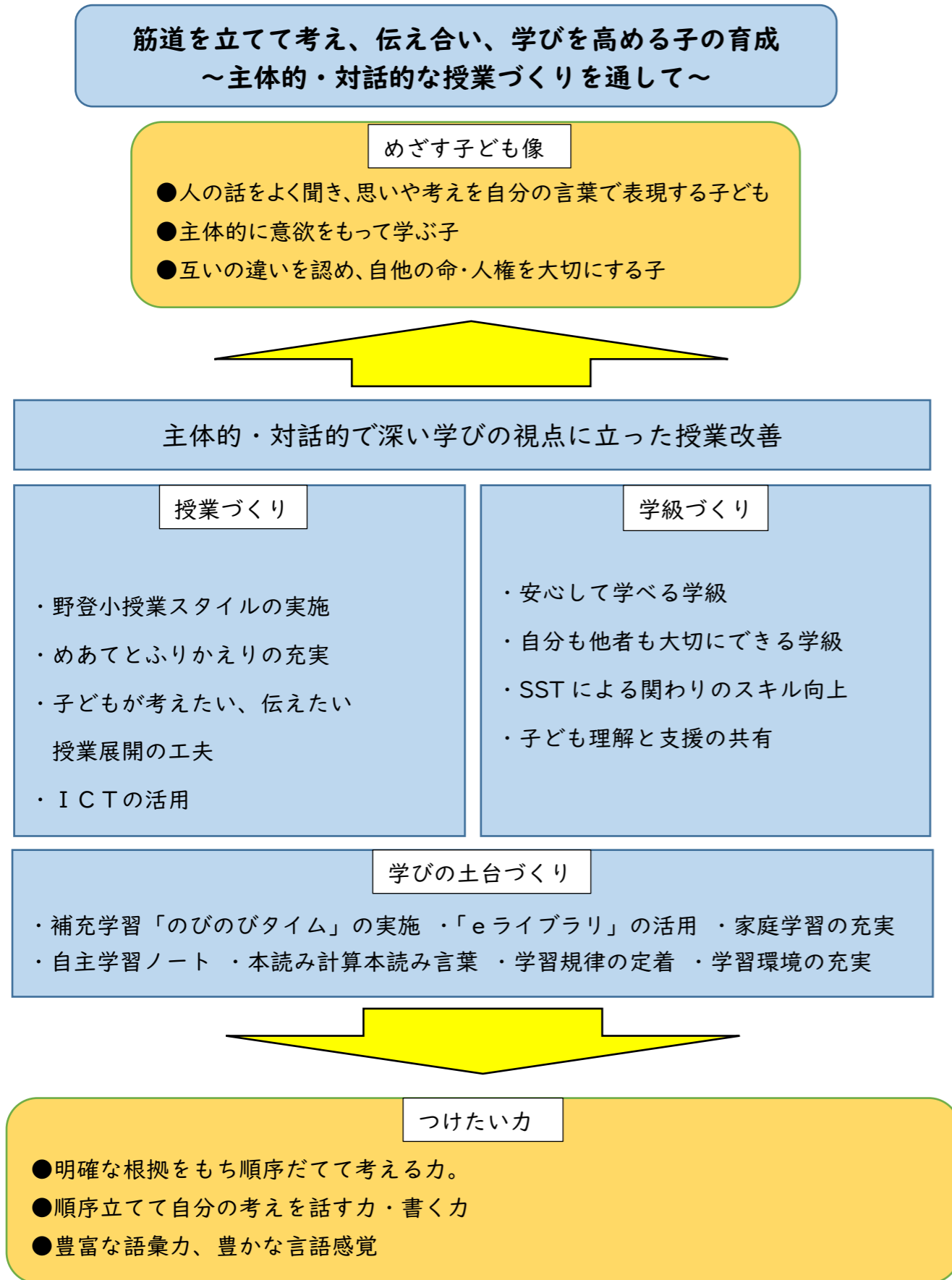
### 2 研究主題について

「筋道を立てて考え」とは、意欲をもって、既習内容を的確につなげて順序立てて考えることである。線分図や面積図などの図、具体物の操作などを通して、順序だてて考えさせたい。また、既習内容を根拠にできるように基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させたい。

「筋道を立てて伝え合い」とは、自分の考えや思いを分かりやすく伝えること、相手の話をよく聞き認めて自分の考えを広げ深めることである。安心して自分の考えや思いを伝えられる学級づくりと、伝えるための表現力やコミュニケーション能力の向上に取り組むたい。ペアやグループでの成功体験を重ね、学級全体へ広げたい。

「高め合う」とは、子ども同士が互いの考えや思いを伝え合い認め合うことで、学習意欲を高めたり、互いの考えや知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題に対する解決策を考えたり、新しい考えを創造したりすることである。

4 研究構想図



5 具体的な取り組み

(1) 授業づくり

① 野登小授業スタイルの実施

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	めあての提示（青）	・子どもの疑問や既習内容との違いを活かしてめあてを設定し、意欲を引き出し、本時の学習に見通しを持たせる。
2 考える	自分の考えを書く	・考えの根拠（既習内容）となるものを明確にさせ、具体物や図、グラフ、言葉などを使って自分の考えをノートにまとめさせる。 ・思考のプロセスがわかるノートづくりをさせる。
3 話し合う 深める	ペア・グループ 全員交流	・板書で意見を整理し、対話が深まるよう、考えを教師がつなぐ。 ・意見の相違点・共通点にも注目させながら、話し合いを深める。
4 まとめる ふりかえる	めあてに正対する ふりかえり（赤）	・児童のふりかえりから、学習のめあてや過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。

② めあてとふりかえりの充実

- ・授業終了時のめざす子どもの姿や付けたい力をから、相対するようにめあてとふりかえりを設定する。
- ・めあてを見て、子どもが「何をどのように学習し、ゴールは何か」を明確に捉えられるようにする。
- ・ふりかえりでは、学習した内容を自分の言葉で書かせることで、自分の学びの成果や変容を自覚させ、学習の定着を図る。このときふりかえりの視点を提示し、算数用語を的確に使うように指導する。

③ 子どもが伝えたいと思える授業

- ・ペア、グループでの話し合い活動を積み重ね、自信をもって自分の考えを伝えられるようにする。
- ・多様な考えをだすことのできる場面、考えが対立し話し合うことのできる場面などを設定する。

④ ICTの活用

- ・ICTの研修会を開き、教師が的確に使用できるスキルを身に着ける。
- ・ロイロノートを活用し、考えの交流や、調べ学習の発表などに活かす。

(2) 学級づくり

① 安心して学べる学級

- ・「野登小学校 学習の約束8」を基にした学習規律と、「話し方あいいうえお」「聞き方かきくけこ」を基にした話し方・聞き方のルールの徹底し、安心して自分の考えを伝えられる環境をつくる。
- ・QUアンケートを分析して活用し、だれもが安心して過ごすことのできる級づくりを行う。

② 自分も他者も大切にできる学級

- ・アサーションを活用し、互いの違いを認め合い、受け止め合える学級づくりを行う。
- ・人権集会や人権学習の充実。

③ 子ども理解と支援の共有

- ・子ども理解委員会を開き、全職員で子どもの情報を共有し、解決策を検討する。

(3) 学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」を毎月設定し、前年度までの学習を中心に復習し、基礎学力の定着を図る。
- ・「eライブラリ」を中心にICT機器を活用し、基礎学力の定着を図る。
- ・家庭学習の手引きを配付したり、学級懇談会で家庭学習の内容を交流したりして、家庭学習の向上を図る。
- ・本読み計算、本読み言葉で基礎基本の計算や漢字を繰り返し学習し、基礎学力の定着を図る。
- ・自主学習ノートを活用し、自ら学ぶ習慣の定着と学力の定着を図る。